

◇Mycoplasma◇

○ Mycoplasma pneumoniae

近年肺炎自体が減少してきたので、相対的に増加してきた。

a) 寒天培地上で自己増殖能のある最小の微生物、約 300 nm

b) 細胞壁を保有しない

c) β-ラクタム剤は無効 グラム陽性菌に近い

1) マイコプラズマ肺炎

長びく頑固な乾性咳嗽 (3-4 週間)

発熱 38 °C (成人は軽症が多い)

原発性異型肺炎 primary atypical pneumonia

学童から家族へ感染

(近年は「異型肺炎」の病名は使われなくなる傾向にある)

年齢分布は 5~9 歳 ... 46.2%, 9 歳以下 75.5%

15~30 歳に次のピークがある。

[倉敷中央病院の肺炎起炎菌]

65 歳以上

S. pneumoniae 30.3 %

H. influenzae 7.5 %

C. pneumoniae 6.1 %

60 歳未満

S. pneumoniae 21.4%

M. pneumoniae 19.3 %

C. pneumoniae 4.1 %

←ペニシリン有効

} ペニシリン無効

↓
成人や小児肺炎ガイドライン

[潜伏期]

5~7 日間、場合によっては 2 週間

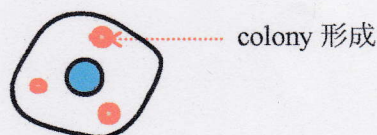
飛沫感染

2) 病原性

a) 宿主細胞壊死

気管支上皮線毛細胞への接着 → かつては活性酸素 (O_2 , H_2O_2) による細胞傷害と考えられていたが、

近年は接着後の免疫反応 (下記参照) の関与が考えられている。



b) 免疫反応

Th1 細胞を活性化して、IL-18、IL-8 などの炎症性サイトカイン産生が促進され、炎症性細胞浸潤病変が引き起こされる。 → 上皮 cell の壊死につながる(?)

c) 中枢神経障害 子どもより成人

※ 注意 抗マイコプラズマ脂質抗体 → 抗神経組織脂質抗体として作用する。

↓
神経を破壊する

髄膜炎

脳炎

神経根炎

[Guillain-Barré syndrome]

自己免疫疾患を引き起こす。

病態が四肢に始まり上行するものに

Guillain-Barré 症候群がある

(cf. p52)